

演習問題の略解 5.4 以降

5.5-1.

(1)

$$\begin{aligned} S_n &= \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n \{(X_j - \mu) + (\mu - \bar{X}_n)\}^2 \\ &= \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (X_j - \mu)^2 + \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (\mu - \bar{X}_n)^2 + \frac{2}{n} \left\{ \sum_{j=1}^n (X_j - \mu) \right\} (\mu - \bar{X}_n) \\ &= \frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (\mu - \bar{X}_n)^2 = (\mu - \bar{X}_n)^2, \quad \sum_{j=1}^n (X_j - \mu) = n(\bar{X}_n - \mu) \end{aligned}$$

を用いる .

- (2) $\frac{1}{n} \sum_{j=1}^n (X_j - \mu)^2$ は大数の法則による . 中心極限定理より $\sqrt{\frac{n}{\sigma^2}}(\bar{X}_n - \mu) \xrightarrow{d} Z$,
 大数の法則より $\sigma(\bar{X}_n - \mu) \xrightarrow{P} 0$ なので , 積をとると , $\sqrt{n}(\bar{X}_n - \mu)^2 \xrightarrow{P} 0$
- (3) 中心極限定理を用いる . $(X_j - \mu)^2$ の分散は , 特性関数を利用して計算すると $2\sigma^4$.
- (4) (3) の左辺と (4) の左辺の差が 0 に確率収束することを示せばよい .

6.1-1.

- (1) 確率 θ で 1, 確率 $1 - \theta$ で 0 という値を取るから , 分布関数は ,

$$P(X \leq x) = \begin{cases} 0 & (x < 0) \\ 1 - \theta & (0 \leq x < 1) \\ 1 & (x \geq 1) \end{cases}$$

- (2) S は , 二項分布 $B(n, \theta)$.

- (3) N 個から n 個取りだす取りだし方は , $\frac{N!}{n!(N-n)!}$ 通り . そのうち , $S = k$ となる取りだし方は ,

$$0 \leq k \leq N\theta, \quad 0 \leq n - k \leq N(1 - \theta) \quad (*)$$

のとき , $\frac{(N\theta)!}{k!(N\theta - k)!} \cdot \frac{\{N(1 - \theta)\}!}{(n - k)!\{N(1 - \theta) - (n - k)\}!}$ 通り .
 k が , $(*)$ を満たさないときは , $P(X = k) = 0$.

- (4) 極限は , (2) と同じになる .

5.2-1.

- (1) 等式は部分積分で証明する . $\int_0^\infty e^{-x/2} \cos(tx) dx$, $\int_0^\infty e^{-x/2} \sin(tx) dx$, に関する連立一次式をといて , 2つの積分値が求められる .
 自由度 2 のカイ二乗分布の特性関数は , $\int_0^\infty \{\cos(tx) + i \sin(tx)\} \frac{1}{2} e^{-x/2} dx$.

- (2) 自由度 n のカイ二乗分布の特性関数を, $\phi_n(t)$ とおくと, カイ二乗分布の再生性より $\phi_2(t) = \{\phi_1(t)\}^2$, $\phi_n(t) = \{\phi_1(t)\}^n = \{\phi_2(t)\}^{n/2}$. (1) で求めた, $\phi_2(t)$ を用いる. $\phi_2(t) = \{\phi_1(t)\}^2$ だけでは, $\phi_1(t)$ は一意に定まらないが, 特性関数の連続性と, $\phi_1(0) = 1$ から, 特定できる.

6.2-2. ガンマ関数の定義と性質

$$\Gamma[a] = \int_0^{\infty} e^{-x} x^{a-1} dx = \frac{1}{a} \Gamma[a+1] \quad (a > 0)$$

を利用する. ($a \leq 0$ のときは, 積分は発散する.)

6.2-3.

- (1) 定理 6.7 より 分散は, $nE(X^2)E\left(\frac{1}{Y}\right)$. 6.2-2 の結果を利用する.
- (2) 定理 6.8 より $V \sim F_{m,n}$ とすると $E(V^k) = \left(\frac{n}{m}\right)^k E(X^k)E\left(\frac{1}{Y^k}\right)$